

2024.9
Vol.120

茨城

ふれあい

CONTENTS

1 協会事業

茨城県留学生親善大使任命式を行いました

2-3 GLOBAL VIEW

多文化共生のまちづくり × 防災 を考える

4-5 交流の広場

インド人コミュニティの紹介
交流のかけ橋 茨城町国際交流協会
Young Eyes / Across Culture ここが違っておもしろい!

6 地球だより

スポーツファンでにぎわうパリ (フランス)

県だより

茨城県留学生就職促進コンソーシアムを設立しました

7 For You

お知らせ

8 Said & Did

茨城県留学生親善大使任命式を行いました

茨城県国際交流協会では、国際交流に意欲ある県内留学生を「茨城県留学生親善大使」として任命し、大使が当協会事業等に参加することで、地域との交流、茨城県の魅力を知る機会を提供しています。キャンパス内では得られない体験をし、茨城県自体に愛着を持ってもらうことを目指しています。

6月22日(土)に任命式を行い、今年度新たに62名を任命しました。以前からの活動者とともに総勢17の国と地域102名が親善大使として活動します。またこれに合わせ、日本学生支援機構の留学生地域交流事業にて、茨城県での交流活動に意欲のある都内留学生13カ国17名を「いばらき応援大使」として任命しました。

任命された大使は「大使の活動を通して多くの人と知り合い、異文化を理解するために自国文化を皆さんに紹介したい」「茨城県の魅力を多角的に紹介することで、より多くの人に訪れてもらえるよう努めたい」など抱負を語ってくれました。

ワールドキャラバン国際理解教育講師等派遣事業に申請し、学校や生涯学習で留学生親善大使、各国事情紹介講師と交流しませんか。



茨城県留学生親善大使・いばらき応援大使 任命式

詳しくは以下
QRコードから。

ワールドキャラバン
国際理解教育講師等派遣事業
QRコード



任命証の授与



交流会

多文化共生のまちづくり × 防災 を考える

事例紹介

日立市 外国人市民向け防災訓練

行政サービスのひとつに、防災・災害時の対応があります。今回、市町村行政が主体となり、市町村国際交流推進組織と協働で企画・実施した外国人市民向け防災訓練について日立市の事例を紹介いたします。
(取材先：日立市生活環境部文化・国際課)

目的

災害時における危険を認識し、適切な情報の取得方法や行動を学ぶことで、外国人市民が災害時に状況に応じた的確な判断のもと、安全を確保する行動ができるようになるため。

参加部署

生活環境部文化・国際課
(日立国際交流協議会企画部会との企画立案、防災かるた体験)
消防本部予防課 (119 番通報練習、水消火器訓練、煙道体験)
総務部防災対策課 (災害に関する講義)

連携

日立国際交流協議会 (事務局 生活環境部文化・国際課)

背景

日立国際交流協議会では、平成 24 年度から外国人市民向けに防災訓練を実施しています。
昨年度に実施した防災訓練では、「防災」の充実と「楽しく参加できる」体験に焦点を当て、事業を実施しました。

概要

実施日時 2024 年 2 月 18 日 (日) 10:00 ~ 13:00
場 所 日立市消防拠点施設 (体験訓練)、
日立市民会館 (災害に関する講義、防災かるた体験)
参 加 者 全体 33 名
(うち 外国人市民 14 名 (国籍:中国、ベトナム、ネパール、モンゴル、フィリピン)、通訳 5 名 (企画部メンバー、通訳ボランティア)、ほか市職員等)
対応言語 英語、中国語、タガログ語、ベトナム語

内 容 1 119 番通報訓練、水消火器訓練、煙道体験
2 災害に関する講義 (日立市の災害、防災情報・避難所開設情報等の取得方法について)
3 防災かるた体験

また、移動時に避難所標識を確認し、標識の意味を説明しました。

●資料はやさしい日本語で作成

●講義は写真 (日立市被災状況、避難所内設備等) を多用し、具体的なイメージを伝えました。

●防災かるた体験は、やさしい日本語の読み札を用いて実施しました。

やさしい日本語の読み札は、事前に市内日本語学校と協力し、やさしい日本語に翻訳しました。

ふりかえり

- 防災情報・避難所開設情報等が取得できる市の公式アプリを体験してもらうことで、災害発生時に外国人市民が適切に情報を収集できるように講義を行いました。
- 防災かるた体験では、楽しく遊びながら、防災の知識を学ぶ機会としました。
また、景品として防災グッズ (保存食など) をプレゼントすることで、防災グッズの準備・備蓄を促しました。
- 防災訓練は、他事業に比べて参加者が少ないことが課題となっています。

今後の災害に備えて

- 日立市では、災害発生時に備え、小学校区を単位とした自治組織である「コミュニティ (市内 23 か所)」が避難訓練を実施しています。今年度は、外国人市民を避難所へ繋げることを目的に、コミュニティと共同で防災訓練を実施する予定です。コミュニティのスタッフにとっては、外国人市民の受入れ体制を整える訓練となるため、外国人市民とコミュニティのスタッフの両方にメリットのある事業とします。
また、外国人市民とコミュニティのスタッフ等の交流により、外国人市民と地域の関係強化も期待しています。
- 日頃から外国人キーパーソンとの関係づくりに力をいれており、防災についても、キーパーソンのネットワーク活用を推進していきたいと考えています。
過去の豪雨災害では、外国人市民からキーパーソンに「自宅近くまで浸水しそう、どうしたらいいか？」と連絡があり、キーパーソンが「避難所又は高いところに逃げて」とアドバイスをしたことで被災を免れた事例があります。
市の災害情報や避難情報をキーパーソンから外国人市民に伝えることで、外国人市民の安全確保にも繋げていきたいと考えています。
- 今後も、キーパーソンのアイデアを、施策や防災訓練をはじめとした事業の企画に生かしていきたいと考えています。



ひなん場所マークの確認



災害情報の収集方法について

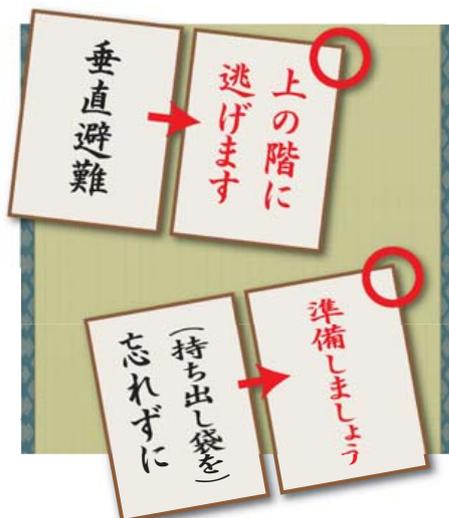
日上市地域防災計画での外国人の位置づけ (一部要約)

- 要配慮者として、災害時に安否確認・避難誘導を行える体制を確立する。防災対策として、外国人を含めた防災訓練の積極的な実施、防災知識の普及・啓発に努める。

平時の環境整備として、次のことを進める

- 身近なところで気軽に相談できる外国人相談窓口の設置に努める。
- 生活情報や防災情報などの外国語による情報提供に努める。
- 日本の地域社会にとけこみ、地域で協力し合いながら生活できるように、外国人と日本人とのネットワークの形成に努める。

防災かるた やさしい日本語 変換例



日上市の外国人市民 2023年12月末(日上市提供)

1677人

上位10カ国(人)	
中国	345
ベトナム	317
フィリピン	253
韓国又は朝鮮	198
ネパール	83
インドネシア	73
ブラジル	69
タイ	60
米国	45
スリランカ	32

「在留資格」のこと

例えば、「家族滞在」は家族の呼び寄せができる在留資格(例 技術・人文知識・国際業務)の人の配偶者や子ども(被扶養者)です。来日したばかりなど、扶養者に比べて日本での生活や日本語に不慣れなことがあります。そうした方にもストック情報が共有できていると、災害時に外国人の誰もが自分で適切な避難ができることにつながります。また、「永住者」「定住者」など日本滞在が長く日本語コミュニケーションが堪能な方や、大学で地域活動に参加している留学生などは、災害時に支援する側になれる人材です。

災害時の外国人支援はなぜ必要？

ことばだけでは通じないことがあるため、外国人の特性に配慮した対応が必要です。災害に関する「ストック情報」と「フロー情報」

ストック情報：事前の知識、教育や訓練で蓄積された情報
地域で起きる災害のこと、ハザードマップ、避難所とは？

フロー情報：災害が起きてから知らされる情報
気象警報、災害発生情報、震度、避難指示

ストック情報がないと、フロー情報(「津波だ」「逃げて」)を受け取っても適切な避難行動につながりません。

災害時の外国人の困りごと

ストック情報が足りないと…

- 災害のリスクがわからない
- 避難の仕方がわからない
- 避難所の場所、避難所で受けられる支援内容がわからない

世界の地震事情

地震が起きる原因はプレートが動く際のひずみであるため、プレートが密集する地域で発生しやすいです。

大きな地震が起きた国・地域	地震が少ないといわれる国・地域
台湾、チリ、ニュージーランド、インドネシア、インド、ネパール、中国、パキスタン、アメリカ西部、ハイチ、イタリア、イラン、トルコ、など	西ヨーロッパ(イギリス、フランス、ドイツなど)、アメリカ東海岸、アフリカ、オーストラリア、カナダ、シンガポール、アラブ首長国連邦、など

身近な外国人と、出身地と日本での自然災害の種類や避難方法について、違いを話してみるとよいでしょう。

災害時に求められる取組み—多言語化

多言語化には「3つの効果」があるとされています。

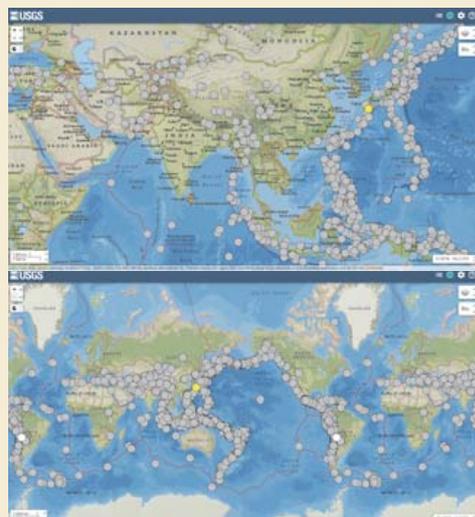
参考：田村太郎氏「災害時外国人支援の課題と今後の展望」
(自治体国際化フォーラム415号 災害時における外国人支援 ZOOM UP)

翻訳効果 情報の翻訳で言葉の壁を超える。

承認効果 自分の言語があると安心する。社会から存在を認められている。

アナウンス効果 「日本語以外の言語を話す人」も被災者で困っていると地域や組織全体で認識

多言語化には「やさしい日本語」にはない効果があります。なお、多言語化はそれ自体が目的ではありません。外国人への「情報伝達」と日本人への「外国人の存在を認識し受け入れてもらう」ことにより、国籍等によらず日本人と外国人とが地域の住民として安心できることが大切です。



1900年から2024年8月までの間にマグニチュード7以上の地震が発生したところ
出典：U.S. Geological Survey / U.S. Department of the Interior

交流の広場

インド人コミュニティの紹介

“ロカ サマスタ スギノ バヴァントゥ
(みんなで幸せに)”
プラシャント レジ スリーラ
(インド出身、ひたちなか市在住)

私たち茨城県に暮らすインド出身者は、2019年6月2日に“Indians in Ibaraki Prefecture, Japan”というグループを立ち上げました。現在、会員数は165人です。“ロカ サマスタ スギノ バヴァントゥ”(サンスクリット語)は私たちが大切にしている思いです。

もともと、全国的な組織として“Indians in Japan”というグループがあります。こちらは2万8千人ほどのメンバーが参加しています。私たちもそのグループに入って、いろいろな情報をもたらしたり発信したりしていましたが、茨城県で暮らすインド出身者が、気軽に集まれるコミュニティがほしいと思い、“Indians in Ibaraki Prefecture, Japan”をつくることにしました。発起人は6名の女性たちです。私たちインド出身の女性は、茨城県内の地域で、会社員として仕事をしている人もいますが、多くが主婦として母として生活をしています。今は、夫たちのサポートも受けて、活動をしています。私たちはインド出身といっても、インド国内での出身地によって、それぞれの文化を持っています。そのような人たちが集まって、インドのいろいろな文化を日本に紹介したいとも考えています。

ディワリ (Diwari)

会場に神様をおまつりし、オイルランプに明かりを灯してみんなでお祝いしました。ランプの光は闇(悪)に打ち勝つ善の意味があります。

新年とボンガル(収穫祭)

インドの新年と収穫祭をあわせて、日本人と一緒に祝いました。インドの踊りを披露したり、カレーを食べて楽しく過ごしました。

ホーリー祭(色彩の祭典)

ヒンズー教の伝統的な春祭りで、悪霊を追い払う意味があります。「ハッピーホーリー」といながら顔などに色粉や色水をつけあいました。

私たちは今住んでいる日本が、そして茨城県が好きです。これからもインドの人たちで助け合い楽しいことをしながら、日本の文化も学びたいと思います。また、日本人をはじめ地域のみなさんにもインドの文化を知っていただけるように活動したいです。

私たち茨城県に暮らすインド出身者は、2019年6月2日に“Indians in Ibaraki Prefecture, Japan”というグループを立ち上げました。現在、会員数は165人です。“ロカ サマスタ スギノ バヴァントゥ”(サンスクリット語)は私たちが大切にしている思いです。

もともと、全国的な組織として“Indians in Japan”というグループがあります。こちらは2万8千人ほどのメンバーが参加しています。私たちもそのグループ



お祈り



ホーリー祭



みんなで

交流のかけ橋 茨城町国際交流協会

茨城町国際交流協会 会長 金子 てる

水と緑に囲まれた自然豊かな茨城町は、農作物に最適な地で、多種多様な作物が作られています。こうした町に、多文化共生の町を目指そうと、令和6年6月29日に茨城町国際交流協会が設立されました。

茨城町では、暑さ、寒さにめげずに農業に携わっている多くの研修生を見かけるようになり、さまざまな業種に従事するために暮らす外国出身者も増えています。

このような中、私たちが、文化、言葉、生活ルールの異なる人たちと対等な関係を保ちながら暮らすことは、相手のことを理解し、お互いの違いを尊重し、過ごしやすい環境をつくる必要があります。

また、私たちが国際的な感性を持ち、多文化共生社会を実現するには、大人になってからではなく、子どもの時から、家庭や学校、地域との連携により、国際的な感性が育まれていかなければなりません。

このような仕組みづくりのため、現在、当会は、町民の人材育成として、「やさしい日本語養成講座」を開催しており、7月には、町の歴史や暮らしを学ぶバスツアーを実施しました。

今後、当会は、「気軽に触れ合える場所作り」、「生活相談を含めた町や日本の生活ルールを知ってもらうことや暮らしに不自由しない日本語を学べる教室」を実施する予定です。

最後に、言葉は、ボランティアのサポートだけで習得できる簡単なことではありません。会員や参加者等との意見交換をし、在留者のニーズを確認しながら、会としてできることを模索し、取り組んでいけたらと考えています。



やさしい日本語養成講座の様子



バスツアーの様子(沼沼自然公園)

YOUNG EYES

リアル日本体験進行中

茨城高等学校1年 (AFS 留学生)
ホブマン エマさん

私はニュージーランドからの留学生です。4年ほど前に「高校時代に留学しよう」と思いました。留学先をどこの国にするか色々迷いましたが、日本のお寺や神社の歴史にとっても興味があり、日本文化についてももっと学びたいと思い、最終的に日本への留学を決め、今年の3月に来日しました。

日本に来て面白いと思ったことは、日本人の外国人に対する興味の持ち方です。それはクラスメートと浅草で浴衣を借りて歩いた時のことで、『浴衣を着た外国人』というだけでたくさんの日本人から写真を撮っても良いかと声をかけられ注目されました。それから、日本の気候が予想以上に極端で驚いています。ニュージーランドの最高気温は28℃位ですから、この連日の30℃超えの暑さは私にはかなり厳しいです。

私の留学期間も半ばになりますが、ニュージーランドと日本との多くの違いを肌で感じ、全く違う新しい文化を学ぶという体験はとても楽しくワクワクの日々を過ごしています。私は母国に戻ったら観光関係の学校に進学予定ですが、新しいことへの真摯な関わり方を学ぶことができ、今後のキャリアにとってとても有意義な経験となり、オープンマインドの姿勢を学ぶこととなりました。来日当初は少し大変でしたが、世界各国から集まった多くの人々と出会い、素晴らしい友人を作ることができました。機会と手段が整えば、国際交流に参加することは素晴らしいアイデアだと思います。正に小さな苦勞を乗り越えるだけの価値ある経験です。



AFS 留学生とともに浴衣試着



現在留学中の高校で誕生日会

ACROSS CULTURE ここが違っておもしろい!



茨城県国際渉外チーム国際交流員
コン・ソフィー

○イギリスってどんな国?

イギリスはサッカー、紅茶、王室で有名な国で、人口は約6600万人と、日本の約半分です。イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つの国から成り立っているのが特徴で、豊かな文化やさまざまな方言、地域言語があります。

○日本に来たきっかけは?

2022年4月にJETプログラムを通じて国際交流員として来日し、茨城県庁で勤務しています。主に通訳や翻訳業務、学校訪問、国際交流などを行っています。リーズ大学で日本語学科を専攻し、学習院女子大学で交換留学をしたこともあるので、日本に住むのは2回目です。中学生の頃、イギリスで初めて日本の書道を見てから、漢字をきれいに書けるようになりたいと思い、日本語の勉強を始めました。

○イギリスと日本のここが違っておもしろい!

イギリスには豊かな紅茶文化があります。イギリス人は朝から晩まで何杯も紅茶を飲み、文化の一部として大切にしています。例えば、イギリスの一部の地域

では、紅茶を飲まなくても夜ご飯のことを「Tea」（紅茶）と呼びます。

気候は日本とは大きく異なり、イギリスには台風も梅雨もありません。さらに、夏でも曇りがちで、冬は非常に寒く暗いのですが、日本は冬も太陽が強く、一年通して陽の光を楽しめるので、そのことに驚きました。

○私の将来の目標

これからも茨城県庁で国際交流員としての仕事を頑張りたいと思います。その後、日英の国際協力に力を入れている会社で働きたいと考えています。もし帰国することになっても、イギリスと日本の架け橋になればと思っています。



地球だより News from the earth

スポーツファンでにぎわうパリ（フランス）

フランソワ・トリュフォー高校教員 松本 牧子

芸術の都として名高いパリは今年、オリンピック・パラリンピックの開催地として、世界のスポーツファンでにぎわっています。特にパラリンピックの開催は今年がはじめてで（オリンピックは3回目）、パリはスポーツを通して市民感覚を高めようと意気込んでいます。たとえば市内の会場付近をはじめ、郊外の広場やスタジアムに無料のスポーツ施設ができて、いろいろな種目を楽しむことができます。ふだん運動とは縁のない人がスポーツを身近に感じたり、障がいに対する見方を変えようというビジョンがあります。環境面では、パリ市はオリンピック開催をきっかけに車道を大幅に規制し、歩道と自転車レーンを増やしました。さらに25000本の樹木を植えて街の緑化に努めています。

私の住むエソンヌ県はパリの南約40kmにあります。たくさんの古城と庭園があり、城周辺には広大な森林と川があります。昔、パリの貴族たちが、エソンヌの川で舟遊びをしたり森で狩りを楽しんだりしたそうです。そのような宮廷文化の名残かどうか、今はカヤックや乗馬などのスポーツが盛んです。

私が日本語を教えているフランソワ・トリュフォー高校は、エソンヌと茨城が姉妹都市である縁から、茨城県立下妻第一高等学校とオンライン交流を行っています。フランスと日本の時差は夏7時間、冬8時間もあり、スケジュールを合わせるのが大変ですが、両校の生徒たちは毎回、共通テーマについて話し合ったり、フリートークで写真を見せ合ったりして大いに盛り上がっています。いつか互いの国を訪れて、本当に会える日が来るのを楽しみにしています。



県だより

「茨城県留学生就職促進コンソーシアムを設立しました」

茨城県産業戦略部労働政策課

係長 菊池 智美



設立総会



インターンシップの様子

県では、外国人留学生の茨城県内への就職を促進するため、大学、企業、行政等が連携・協働する「茨城県留学生就職促進コンソーシアム」を8月23日（金）に設立いたしました。

深刻な人手不足が社会問題となる中で、外国人材の活躍が不可欠な状況となっています。

中でも、日本の文化・習慣などに理解のある外国人留学生は県内に約3千人在籍しており、卒業後も県内で活躍していただくことが期待されますが、一方で、留学生の就職にあたっては、日本企業の採用方法や働き方に関する理解がハードルであると言われてしています。

こうした状況を踏まえ、今後、本コンソーシアムにより産学官が連携して、留学生向けインターンシップや企業説明会などのイベントを提供してまいります。留学生の皆様は、ぜひご参加ください。



外国人のための休日無料相談会

10月以降、「外国人のための休日無料専門家相談会」を下記のとおり開催します。県内在住の外国人で専門家のアドバイスが必要な方は、日本語だけでなく外国語でも相談できます。外国語は下記10言語での通訳が可能ですので、母国語で相談したい方はぜひこの機会をご利用ください。

1.【外国人のための一日無料専門家相談IN鹿嶋】

日時：令和6年10月20日(日) 10:00~15:00(受付14:30まで)
場所：鹿嶋市立中央公民館 3階 (鹿嶋市宮中4631-1)
専門家：弁護士、行政書士、社会保険労務士、他

2.【外国人のための一日無料専門家相談INつくば】

日時：令和6年11月10日(日) 10:00~15:00(受付14:30まで)
場所：つくば市役所 2階 (つくば市研究学園1-1-1)
専門家：弁護士、社会保険労務士、東京出入国在留管理庁職員、他

3.【外国人のための一日無料専門家相談IN古河】

日時：令和7年1月26日(日) 10:00~15:00(受付14:30まで)
場所：古河市中央公民館 (古河市下大野2248番地)
専門家：弁護士、社会保険労務士、東京出入国在留管理庁職員、他

※各回共通

相談内容：在留資格、労働問題、結婚、税金、保険、その他生活全般
※相談無料、秘密厳守、通訳付き
対応言語：日本語、英語、中国語、タイ語、タガログ語、ポルトガル語、韓国語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、シンハラ語
※その他の言語は翻訳機等に対応

問合せ先：(公財)茨城県国際交流協会 外国人相談センター
TEL：029-244-3811
(当日の連絡先：070-4002-2547)

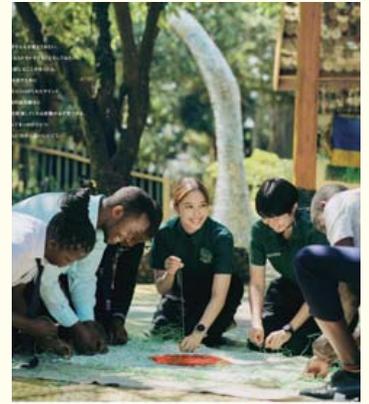
~JICA海外協力隊2024年度秋募集のお知らせ~

2024年度JICA海外協力隊の募集を10月1日(火)~10月31日(木)の日程で行います。募集期間中はつくば市と水戸市にて説明会を開催予定です↓

10月5日(土) 14時~16時
コリドイオ3階
多文化共生ルーム(つくば市)

10月19日(土) 14時~16時
エクセル本館6階
エクセルホール(水戸市)

JICA海外協力隊の説明会を開催します！海外や国際協力、ボランティア活動に興味のある方ならどなたでもご参加いただけます。



JICA海外協力隊

詳細はコチラ↓

問合せ先

JICA茨城デスク((公財)茨城県国際交流協会内)
国際協力推進員 新井
電話番号:029-241-1611
Eメール:jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp



バナー広告募集中!

当協会ホームページのトップページにバナー広告を掲載することができます。国際交流や多文化共生等に興味がある方や、生活情報などを求める外国籍の方々によく閲覧されている当協会のホームページを通して、あなたの会社や事業をPRしてみませんか。なお、バナー広告料収入は、協会の様々な事業に有意義に使わせていただきます。

詳細はコチラ↓



賛助会員を募集しています!

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援をもとに、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円(1口以上)
	個人会員	1口 3,000円(1口以上)



※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。

令和6年度 団体賛助会員 (令和6年7月末現在) ※敬称略

イガラシ綜業株式会社
石岡商工会議所
「茨城アジア教育基金」を支える会
いばらき印刷 株式会社
一般社団法人 茨城県医師会
公益財団法人 茨城県開発公社
茨城県火災共済協同組合
茨城県行政書士会
一般社団法人 茨城県経営者協会
一般財団法人 茨城県建設技術公社
茨城県市長会
社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
茨城県商工会議所連合会
茨城県商工会連合会
茨城県信用組合
茨城県信用保証協会
茨城県青年海外協力隊を育てる会
茨城県世界青年コミュニケーションクラブ(WYCC)
茨城県中小企業団体中央会
茨城県町村会
茨城県日中友好協会
株式会社 茨城ポートオーソリティ
株式会社 茨城読売！S
鹿島都市開発 株式会社
鹿島埠頭 株式会社
鹿島臨海通運株式会社
鹿島臨海鉄道株式会社
Global Exchange Education
株式会社 光和印刷
古河市国際交流協会
国際ソロプチミストつくば
J A 茨城県中央会
下館商工会議所
株式会社 常陽銀行
常陽トータルサービス 株式会社

昭和建設 株式会社
鈴縫工業 株式会社
関彰商事 株式会社
株式会社 高野高速印刷
社会福祉法人 達生堂 城西病院
筑西市国際友好協会
中国武術茨城推進協会
チョップ サラン
株式会社 筑波銀行
株式会社 つくば研究支援センター
電機連合茨城地方協議会
那珂市国際交流協会
日本原子力発電株式会社 東海事業本部 地域共生部
日本語学校つくばスマイル
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
ヌーベルアーージュ株式会社
ヌーベルキャリア株式会社
ヌーベルメディア株式会社
ハン サラン
常陸大宮市国際交流協会
日立商工会議所
広沢商事 株式会社
フレンドリーあんず
フレンドリージャパンワールド
水戸内原国際交流ふれあいの会
水戸商工会議所
メサフレンドシップ
株式会社 めぶきリース
株式会社 ライフサポート山野
株式会社 ルックアップ
国際交流おもてなし「瑠璃の会」
ワタヒキ印刷 株式会社

他1社 計68団体

皆様のご支援とご協力に
心より感謝申し上げます。

Said & Did

第1回クエスト茨城留学生研修を実施しました

夏のクエスト茨城留学生研修を、7月6日(土)に実施しました。本ツアーは、留学生が茨城県への理解を深め、愛着を持って留学生活を送ることを目的としており、留学生27名が参加しました。

今回はひたちなか市と水戸市を訪問し、フォトジェニックなパワースポットとして海外からも注目されている酒列磯前神社の見学と、日本で生活する上での防災知識を深めるべく日本赤十字社茨城県支部、水戸地方気象台の見学を実施しました。

神社では、手水の作法や境内の説明を伺い、正式参拝・玉串奉奠を体験しました。神社巡りが好きな留学生も多く、自由時間にはお守りを購入したり、御朱印を貰ったりと思い思いに楽しみました。

日本赤十字社では、災害の多い日本で暮らすうえでの備えの大切さについて、ワークショップ形式で講義と安全対策ゲームを通じて学びました。そして災害倉庫や緊急車両を見学し、日本の防災対策に感心している様子が見受けられました。

気象台では、防災動画の視聴や施設内を見学し、気象台の役割と身近な防災対策について知識を深めることができました。留学生は積極的に質問し、気象観測装置や天気予報について学ぶことができました。

バスツアーを通して、日本文化に触れ、日本の防災対策について学び、他の学校の留学生と交流できたりと、充実した一日を過ごすことができました。



第1回クエスト茨城留学生研修

ネットワーク会議を開催しました

7月18日(木)、県内の市町村、市町村国際交流協会、民間国際交流・協力団体を対象に、令和6年度国際交流・協力ネットワーク会議が対面形式で開催され、総勢130名の方々が参加しました。

午前の基調講演では、日伯関係の専門家である武蔵大学社会学部教授、アンジェロ・イシ氏が「共生社会の実現には何が必要か～在日外国人が直面する言葉・心・法の壁～」と題して講演しました。イシ氏は、日系ブラジル人の素顔や本音、日本での外国人住民が抱える「法律の壁」や「心の壁」などを取り上げ、多文化共生社会への発想の転換についてお話しいただきました。

午後は3つの分科会に分かれ、各テーマについて事例発表やワークショップが行われました。第1分科会では、外国にルーツを持つ7名をゲストスピーカーとしてお招きし、茨城での生活で日頃から感じている疑問点を洗い出し、参加者とともにその解決策などを話し合いました。

第2分科会では、開発途上国の課題解決を通じてSDGsの推進を行っている「JICA筑波」の職員2名の進行で、SDGsの進捗状況を読み解くアクティビティや「2030年こうなってほしい地域を一緒に考えよう」というテーマでワークショップを行いました。

第3分科会では、地域日本語教育推進員2名がファシリテーターを務め、「やさしい日本語」の誕生背景やその必要性について説明しました。その後、参加者はグループに分かれ、具体的な言い換え方法について一緒に考えるワークショップを実施しました。

この会議が参加した皆さんの今後の活動やネットワークづくりの良い機会となれば幸いです。



ネットワーク会議

外国人のための一日無料専門家相談会開催

「外国人のための一日無料専門家相談会」は、複雑な問題を抱える外国人等に対し、母国語で専門家に相談できる機会を提供する目的で、毎年開催しているものです。

今年度は、当該相談会を県内5カ所で実施する予定となっており、まず第1回目の相談会を、6月30日(日)土浦市にて開催しました。当日は、県内各地から外国籍の方が会場を訪れ、弁護士、行政書士、社会保険労務士等が通訳を介して、在留資格、労働問題、帰化、年金・保険、税金、など34件の相談に対応しました。

続いて、第2回目の相談会を9月8日(日)筑西市で開催し、在留資格や家族の問題など13件の相談があり、在留資格や出入国関係の相談には東京出入国在留管理庁職員が、通訳を交えて対応しました。

書き損じはがき等の回収の終了について

当協会では、皆様のお手もとにある使い残しの年賀状などの未使用ハガキや、使用済の切手、外国紙幣・コインなどを収集し、国際協力活動を行うNGO等に寄付してまいりましたが、ハガキ等の発行枚数が大幅に減少する等社会情勢の変化などにより回収を終了させていただきました。

長年の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

2024年度春期世界文化セミナーを実施しました

4月から7月にかけて、トリニダード・トバゴやイギリス、グアテマラなど、様々な国籍の講師を8名招き、母国の文化の話を英語で聞きながら、意見交換を行うことで、異文化理解を深めました。

今回は従来の対面コース(隔週金曜日)に加え、オンデマンドコースを新設しました。合計47名と今回も多くの方々にご参加いただきました。

今回特に関心が高かったのは、英・独・仏国出身の講師による「異性の客」という発表です。ドイツ人の母親とイギリス人の父親を持ちながら、スイスに生まれ、フランスに育ち、世界一周を経て、茨城に移住し、県内の伝統工芸品を義父から受け継いでいるという異例な国際的な背景を持つ講師が育ったユニークな環境や多国籍者のアイデンティティーについて語りました。

また、最終回の交流会を5年ぶりに開催することで、講師と参加者が先生と受講者という立場を超え、対等的かつ自由に交流できる時間を設けるのも異文化交流に不可欠なものだと改めて実感できました。



編集・発行



(公財)茨城県国際交流協会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町後川745 ザ・ヒロサワ・シティ会館分館2F
TEL:029-241-1611 FAX:029-241-7611

ホームページ <http://www.ia-ibaraki.or.jp>
メールアドレス iaa@ia-ibaraki.or.jp